

# 畜産

## 実況

### 1 平成 27 年度第 1 回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成 27 年 4 月 6 日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	BMS (No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm <sup>2</sup> )	上物率 (%)
去勢	福井	15	2,161	984,384	7.8	452.6	55.6	100
	全体	31	2,371	1,058,957	7.2	446.0	55.1	90
雌	福井	7	2,080	940,472	6.7	449.8	58.9	86
	全体	15	2,300	969,624	6.1	421.3	55.1	80

最高価格は、1,349,840 円、去勢牛(美徳国×福桜(宮崎)×日向国)、27.7 カ月齢、A-5(BMSNo9)、枝肉重量 515.6 kg、ロース芯面積 66 cm<sup>2</sup>であり、宮崎県産であった。枝肉単価は、前回より、去勢で 23 円高く、雌で 146 円高かった。

### 2 平成 27 年度第 2 回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成 27 年 4 月 20 日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	BMS (No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm <sup>2</sup> )	上物率 (%)
去勢	福井	18	2,352	1,137,038	7.1	483.1	57.9	94
	全体	43	2,518	1,183,062	6.9	469.5	56.2	81
雌	福井	12	2,250	1,045,293	6.3	464.3	58.8	83
	全体	19	2,432	1,116,533	7.2	459.7	58.9	89

最高価格は、1,533,036 円、去勢牛(福安照×肥後桜×北仁)、28.3 カ月齢、A-5(BMSNo12)、枝肉重量 516.0 kg、ロース芯面積 72 cm<sup>2</sup>であり、石川県産であった。枝肉単価は前回より、去勢で 147 円高く、雌で 132 円高かった。

## 対策

### 1 雌豚の授乳期および離乳後における飼養管理について

雌豚の授乳期および離乳後における飼養管理について、雌豚のボディコンディションのスコア(以下スコア)を中心にまとめる。

#### (1) 離乳時のスコアが最も重要

授乳中の飼料給与量が不足すると、分娩後 5 日以降には目立って痩せてくる。分娩後 4 日から 5 日頃より 2 日毎に雌豚のスコアを観察し、痩せ始めるようであれば給与量を増やす。授乳期の体重減少を 10kg から 15 kg 以内に抑えることが飼養管理のポイントになる。

#### (2) 初産後のスコアは特に重要

離乳した時に雌豚のスコアが低いと、繁殖に関するホルモンの分泌が少なくなる。特に 2 産目の交配を行う時にホルモンのバランスが崩れると、3 産以降にも繁殖成績に悪影響が出る。離乳から発情までに痩せている場合は、飼料を 1 日当たり 3 kg から 4 kg 与える。

#### (3) 個体毎に記録をとる

分娩豚舎では雌豚 1 頭毎のプレートにスコアと給与量を記入しておく。スコアが上がるようならば、給与量を減らす。

(4) 子豚の里子または早期離乳も考える

給与量でスコアを調整できない場合は、雌豚の負担を軽くするために、子豚を数頭里子に出すか、5 kg以上の大きい子豚を早めに離乳する。

(5) 里子はスコアを低下させない有効な方法

生後4日以内で丈夫な子豚であれば、どの雌豚でも泌乳能力に応じた頭数の子豚を育てられるので、里子を積極的に利用する。

2 鶏の代表的外部寄生虫について

気温の上昇に伴い、鶏の代表的外部寄生虫であるダニ類の繁殖が旺盛になる。以前からのトリサシダニに加え、ワクモの被害が目立つようになってきている。トリサシダニとワクモの生態は大きく違う点があり、特にトリサシダニは鶏の体上に常在しているが、ワクモは夜行性で移動性である点が大きく違い、これがそれぞれを駆除するポイントとなる。対策のポイントは、以下の通りである。

(1) 寄生しているのはトリサシダニかワクモかを見極める。

(2) 殺虫剤の散布場所を、寄生しているダニに合わせる。

トリサシダニの場合：鶏体上に常在するため、殺虫剤も鶏体上に散布する。

ワクモの場合：環境中に生息するので、環境中への殺虫剤散布を行う。しかし、鶏がいる状態では鶏舎全体に殺虫剤を散布することは難しい。よって、オールアウト時に徹底的な殺虫剤散布を行うことを推奨する。

(3) 散布する殺虫剤の感受性を確認する。

一部、抵抗性を持ったものが認められる場合があるが、その際は、殺虫剤の系統を変えることで解決できる。

(4) 畜体をオールアウトした際に、洗浄剤を使用して水洗し、残存するワクモ等をできるだけ取り除き、侵入を防止する。水洗後・消毒剤を散布した後・導入前などに、鶏舎内全面へ殺虫剤を散布することも、残存ワクモ等を駆除できるので効果的である。